

# 一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159  
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

## 一の宮巡拝は、人を幸せにする。

一の宮巡拝会は昨年結成10周年を迎えました。一の宮を巡拝される方々の交流と便宜を図る目的で会を結成し、全国的に様々な行事を毎年行ってきました。お蔭様で会員も増え始め、特に最近では、神社仏閣や社叢による癒し効果が認識され、パワースポットなどと注目されるようにもなりました。それで神社やお寺にお参りする若い人たちが増えているのは事実で大変嬉しいことです。さまざまな神社にお参りするうちに人は汚れ・穢れが落とされ清められ、すがすがしくなります。そして元気になり、幸せな気持ちになります。全国に鎮座する百八社の一の宮神社に是非お参りをしていただきたいと思えます。

さて、一の宮巡拝会の関東ブロック交流会が3月6日に行われ、安房国一の宮・安房神社と洲崎神社を参拝いたしました。安房は古代海人族のルートにあたり、徳島県の阿波から移住した人々が開いた

地と言われます。安房神社の社殿は神山を背に多様な樹林が生い茂るまさにパワースポットといえます。急勾配の山から浸み出る御神水は不思議な味覚をしていました。上の宮の御祭神天太玉命は産業の総祖神としての御神徳を世に顕しておられます。



上／洲崎神社扁額 下／神氣漂う安房神社ご神水場

もう一つの安房国一の宮・洲崎神社は館山市洲崎の御手洗山に鎮座され、太平洋が一望でき富士山、大島が望めます。御本殿は150段の急な階段の上であり、祭事の際は御輿がこの急な階段を昇り奉納されます。

この安房の地は「南総里見八犬伝」で有名な里見氏の館山城跡や、八犬士のモデルとなった八遺臣の墓があります。また、洲崎神社

からおよそ百メートルのところに養老寺があり、境内には役行者の岩屋が遺されています。岩窟に彫られた役行者の石像など、修験道の開祖で妖術を使ったといわれる役行者ならではの異空間を体験しました。

一の宮巡拝会代表世話人 関口行弘

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

### 一の宮巡拝会本部事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159  
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

### 一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内  
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135  
 E-mail：shio0369@crocus.ocn.ne.jp





産業総祖神を顕す麻の大幣



摂社・下の宮



かっさ舞(雨乞の農耕儀礼)の例祭を行うが…  
本日は大雨なり、お清めなのでしようか…



海蝕鉋切洞穴内に鎮座する  
船越鉋切神社の本殿



葺き替えが済み未だ新しい屋根の拝殿



小雨の中鳥居に入って参拝へ



洲崎神社・本殿へ続く148段の急な階段を登る



神気が漂う洲崎神社本殿と神山



洲崎神社の鳥居と神鎮座・御手洗山



洲崎神社の由緒を説明する田代禰宜様と宮司様、そして説明を聞く参加者・老若男女29名



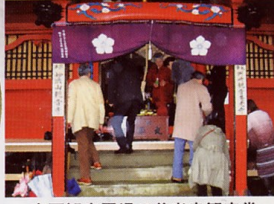
歓迎  
一ノ宮  
巡拝会  
関東  
ブロック  
御一行様



「漁師茶屋」の食事



ご開帳された岩窟「神変大菩薩」役小角の石像が崇高なる面持ちで語りかけている様だ。行者の左右には夫婦の従者とと呼ばれる善童鬼と妙童鬼が覗える。



安房観音霊場の養老寺観音堂



新鮮寿司定食にご満悦



本尊千手観音様が開帳してお迎えしてくれました

バック写真/安房神社・造替された拝殿

拝殿右壁の神々しい彫刻

東京駅7時30分集合、8時前に出発、首都高速から湾岸道経由アクアラインを通り館山道を富楽里パーキングへ休憩後玉串奉奠の講習を行う。安房神社の正式参拝では、玉串奉奠を関口代表に続き初参加の松尾吉江さんが3月生まれという事で選ばれ参加会員は列拝した。昼食は海の駅・伊戸いば「漁師茶屋」にて新鮮寿司定食を頂き洲崎神社へと向かった。このころから雨が激しく降りだした、階段を昇るに従い益々激しくなった。此处での玉串奉奠は代表に続き、今回参加の最高齢者と云う事から藤原泰二郎さん(83才)が参加者代表で奉奠、会員は

列拝した。田代宮司・禰宜さまから神社説明をうけ勉強させて頂いた。続いて洲崎の別当と云われていた隣接の妙法山養老寺に行き開帳していただいた千手観音様の迎いで寺説明を藤田住職から聴く。そして、今回のサプライズとも言える「役の行者の岩屋の石像」を開扉して見せていただいた。素晴らしい出来事で巡拝会の行事ならではの結果だと思えます。益々激しい雨の中、めずらしい海蝕洞穴内に祀る船越鉋切神社と海南刀切神社を参拝した。次に市立館山博物館を拝観後、予定通り東京駅にて解散した。

孟宗竹粉 竹座(たけくら)

※農業(飼料・肥料・土壌改良材) ※天然竹炭  
※建材(壁材で脱臭・調湿) ※食材(竹座漬)

製造元：池田工業株式会社

〒579-8002 大阪府東大阪市池之端5-26  
TEL:072-985-5351 FAX:072-985-2406  
URL:http://www.ikedakougyou.co.jp



泉大津ロイヤルテニスクラブ

Tennis Makes us Happy!  
会員☆スクール生 随時募集中!!

〒595-0024 大阪府泉大津市池浦町1-8-33  
TEL:0725-22-2324 FAX:0725-22-4040  
E-mail:takaderahachirobe@nike.eonet.ne.jp



小説「全国一の宮」調元祖

# 橋 三喜 (第四十回)

郡 順史・作 関口 之洋・画

三人の姿が前方の闇に消えてから、平之進がぼつんと洩した。

「驚き入りました」

「何が——」

三喜も闇を見詰めながら訊いた。

「あの三人、誰の指示をえてかは存じませんが、先生を殺し、自分たちも死ぬ気で、待ち構えていたんですね」

「うむ。此の度の事では反対する者はおらぬと思うていた。

迂闊であった。ともあれもう一度、家老殿と寺社奉行殿と相談せねば相成らぬな」

「これから戻りますか?」

「いや、もう夜だ、明日お伺いすることに致そう。が、お知らせだけは申し上げておこう」

そう言うと三喜は、懐から懐紙、腰から矢立をはずし、懐紙に、

『緊急にご面談申し上げねばならぬ件しつぱたい出来申し候ゆえ、明朝辰の下刻お伺ひ申し上げ候。何卒村松伊織様もお呼び置き下されます様懇願仕り候』(辰の下刻とは午前九時の事)と記し、

「これをお届け申し上げます」

と言って踵を返した。

そして門番から取次の士に確に渡ったと確認すると、再び踵を返し、平之進へ、

「わしは今夜は宮に厄介に相成るが、おぬしは如何いたすかな」

と訊いた。宮とは三喜が青年期宮司を勤めていた七郎宮の事である。外濠からそう遠くないので、明朝國家老を訪ねるのに便利、と思ったからであった。

「拙者も先生とご一緒させていただくわけには参りませんでしょうか」

「左様、一緒なら好都合に相違いないが、<sup>じじの</sup>爺殿に逢わなくともよいのかな」

爺殿とは平之進の祖父母の事である。平之進の島上家は父母本人とも江戸詰になったので、故郷平戸の家は隠居した平之進の祖父母が守っているのである。平之進より、祖父母のほうが、久方ぶりに帰ってきた孫に逢いたがっているのではないかと三喜は察しをきかせたのであった。

「このまま直ぐに旅立つわけではありませんから、これから逢って話をする機会はいくらでもあります。ですから——」

「相わかった。親の心、子知らずか——」

三喜はぼつんと呟き、歩き出した。

翌朝時刻通り、三喜と平之進は國家老滝川家を訪れた。

まだ村松寺社奉行は姿を見せていなかったが、ほどなく着到、國家老と共に三人の顔が揃った。

三喜は、昨夕の三人が待ち構えていて、緊迫した交渉があったことを告げ、「あれほどに強く宮大工連に憤懣が蔵ふんまんされていたとは、訴えられるまで迂闊にも考えも致しませんでした。さりながら訴えられました以上は、藩方と致はんかたしましても、彼等を納得させ得る方策をきちんと致さねば相成らぬと愚考致し、

方途、お智慧を拝借に及びましてございます」

三喜は暗殺という無法な行為に出た彼等に、両重役が悪意を持たぬようにと、言葉遣いに注意して事実を告げた。

その甲斐あってか國家老は、

「どのようにすればその者たちは納得するのかな」

と、三喜の望むほうの意見を述べた。

村松寺社奉行も、

「島の宮職人をすべて納得させるなど、不可能なのではないか。それとも天外のよい手立てがあるのか」

積極的に質問してきた。

(つづく)



株式会社 アドワーク

クリエイティブ

企画・デザイン・デジタルデータから各種印刷・特殊加工

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12 第一大津ビル  
TEL: 03-5823-3900 FAX: 03-3865-2135  
E-mail: mac-data@adwork-net.co.jp (代表アドレス)

有限会社 自然と文化の旅

観光バスの手配は・・・担当者：入江 光まで

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町4-9 みちのくビル2階  
TEL: 03-5825-6155 FAX: 03-5825-6156



# 一の宮巡拝会 伊勢参宮・全国交流会開催のご案内

陽春の候、皆様方には愈々ご清祥の事とお慶び申し上げます。平素は一の宮巡拝会の各行事にご協力を賜わり、ありがたく厚く御礼申し上げます。さて、本年の一の宮巡拝会の全国交流会を、来る4月24(土)～25日(日)の2日間にわたり聖地『伊勢』で開催する運びとなりましたのでご案内申し上げます。

一の宮巡拝会の団参としては初めての伊勢参宮でございます。昨年、の天皇陛下御即位20年の奉祝とご結婚50周年の慶祝を遅ればせながらお祝い申し上げたいと存じます。又一の宮巡拝会も昨年結成10周年を迎えて記念シンポジウム『神さまって何?』を尾張国一の宮・真清田神社にて開催し充実した節目を経る事が出来ました。神々さまの廣大無辺なお導きによるものと思っております。新たな指針の先がけとして伊勢神宮の聖地に赴き、「ご皇室の益々の弥栄と国家安寧」をお祈り申し上げると共に、巡拝会の発展並びに会員各位のご健勝と巡拝の成就を祈念し、御神楽を奉納致したいと存じます。内外両宮の御垣内参拝はもちろんのこと、より清浄なる早朝参拝も計画いたしております。神宮の聖域に身を委ね清心なる息吹を感じていただきたいと思います。神宮・神さま・歴史等など関心のある方々の情報交換や親睦を深め合う場となれば幸いです。皆さまお誘いあわせの上、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

事務局



清浄感漂う早朝の五十鈴川

- 目的地** 伊勢神宮(内宮御神楽奉納・両宮御垣内正式参拝)
- 日程** 平成22年4月24日(土)～25日(日) 1泊2日
- 宿泊地** 二見浦・朝日館 (政府登録国際観光旅館)
- 参加費** 25,000円 (玉串料・御神楽料・饗膳料・25日昼食費・宿泊料・観光バス交通費)
- 集合地** JR伊勢市駅前 4月24日(土) 正午12時 時間厳守
- 解散地** JR伊勢市駅前 4月25日(日) 午後3時 予定
- 服装** 両宮・御垣内参拝致します。男性は背広・ネクタイ着用を厳守、女性も留意して下さい。

### スケジュール

- 第一日目:** JR伊勢市駅→バスにて外宮(御垣内参拝)→別宮参拝→志摩国一の宮・伊雑宮→伊射波神社(遙拝)→二見浦・朝日館宿泊(創業270年の老舗旅館)懇親会 午後6時30分～
- 第二日目:** 午前5時30集合 午前5時45分、朝日館バス出発→神宮会館着→内宮・早朝参拝(約1時間30分・神域内の説明有り)→バスにて朝日館へ戻り8時から朝食→9時出発バス→神宮会館着→内宮神楽殿(御神楽奉納)→御垣内正式参拝→荒祭参拝→神宮会館へ各自戻り。12時より神宮会館にて、神恩感謝の饗膳・昼食→13時から自由時間～おかげ横丁散策～バス神宮会館14時30分発→伊勢市駅15時解散予定。

参加希望者は4月5日迄に **FAX: 0725-22-4040** 又は電話**080-3108-4881**で高寺 壽まで連絡下さい。ご案内・申込書・振込用紙を送付致します。

一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内

〒111-0055 東京都台東区三筋一十二-二二  
電話 〇三三五八-三三二九〇  
FAX 〇三三三八五-二三三五

●入会金及び会費について  
一般維持会員 年会費 三〇〇〇円  
賛助会員 一口三〇〇〇円(何口でも可)  
寄付金 お志し ※常時受け賜ります。薄謝謹呈  
●会費等お振込み先  
郵便振替(大阪) 〇〇九九〇-一五八-五二五

※ ご購入希望者は東京事務局まで ※

全て250gと軽量で携帯に便利、墨書きも吸い込みが良く速乾性にも優れ好評です。

四国和紙・楮世ヶ峰  
一の宮・神社名・祭神名入り  
定価七千円(送料別)

四国和紙本文全て白紙版  
定価六千円(送料別)

斐伊川和紙(出雲・手漉ぎ)  
一の宮・神社名・祭神名入り  
定価一万五千元(送料別)

**御朱印帳**

出雲和紙御朱印帳近日完成!

「全国」の宮会「編」  
公式ガイドブック **全国一の宮めぐり**

全国一の宮めぐり

一の宮神社のみでの頒布で一般の書店では購入出来ません。諸国一の宮神社の社頭でお求めください。又は東京事務局へお問合せください。  
頒価(一〇〇〇円(送料別))

日本伝統建築研究所 川仁(かわに)

建築家 菊園武彦  
—— 神社建築・日本伝統家屋のご相談は ——

〒541-0053 大阪市中央区本町4-7-12 大急ビル7階  
TEL: 06-6261-2262 FAX: 06-6261-2336  
E-mail: kawani@kawani.com URL: http://www.kawani.com

SSC アートギャラリー

贈答用絵画・インテリアに・・・  
有名作家～新人作家の絵画・版画・陶芸・彫刻

〒666-0111 兵庫県川西市大和東2-13-10  
TEL: 072-791-5158 FAX: 072-791-5159  
E-mail: sekiguchi@sekinomiya.com